

志高く掲げる

CAL研究会、鳥取で研究会

CAL研究会は14、15の両日、鳥取市内で研究会を開催した。テーマは「勝ち残るための10カ条」。

冒頭同研究会の生川正洋氏が基調講演。ロシアや中東、トランプ氏の大統領復帰などの国際情勢を踏まえSS業界に与える影響を概説。「不安を抱えて経営を続けても事態は好転しない。発想の転換が必要。われわれはCALという組織に身を置き多くの仲間がいる。その仲間を大切にすることから全てが始まる」と強調。

その上で「混迷の時代を勝ち残っていくと真剣に考えるのであれば、自分自身が立てた志を高く掲げそれを達成していく強い意志を持つことだ。現在はわれわれがかつて経験したことがないような転換期。どうすれば勝ち残ることができるかは極めて重要な問い」と述べた。

続いて米井哲郎智頭石油社長が「智頭石油のTCS（トータル・カー・サービス）ワンストップサービスと超格安長期レンタカー」を説明。

長期型レンタカーの特徴として①主に1カ月から長期間の利用が可能②短期に比べ1日当たりの料金が安い③手続きが簡単で延長もできる④維持費不要（任意保険、車検、オイル交換などが不要）を挙げ、「長期型はまだ競合が少なく空白地帯。当社は超格安、低価格で利用できるライトクラスから先に始め、次に利益率が高いハイ



鳥取市役所の車両管理システムを見学

クラスに力を入れていく」と話した。

弁護士の曾我紀厚氏が「債権回収の定型化」について説明。

曾我氏は「債務者が代金を支払ってくれない場合、訴訟を起こし差し押さえる方法があるが、それにはコストがかかり、差し押さえる財産がなければ回収できない。債務者の任意の支払いをうながすため、『支払わないと困る』状況を作ることが大切」とその手順を説明。

車両管理のDX化

続いて谷口俊介智頭石油新事業推進室長が「車両（公用車・社用車）管理のDX化推進について」と題して同社が取り組む車両管理システムを説明。

システムは車の予約とキーの管理、ドライバーのアルコールチェックなどの機能を組み合わせたもので、現在鳥取県、鳥取市、鳥取

県倉吉市、高知県で受注。「職員は自身の端末で車の空き状況をリアルタイムに確認できる。柔軟な利用が可能になった。管理スタッフの人員と車両台数の削減効果があり、コスト低減に有効」と述べた。その後参加者は鳥取市役所のシステムの稼働現場を見学した。

続いて高山幸嗣筑豊太平石油社長が「運転免許返納アドバイザー」について説明（「ざっくばらん」参照）。

高山氏の説明の後、参加者は智頭石油サウスステーションや雲山店（年中無休24時間営業の指定工場、板金塗装、ロードサービス、損保生保店舗）、叶SSの現場見学を行った。

15日は山下真司山下石油社長が「CALマート」（中古車在庫共有システム）、目見田純也目見田商事社長が「CALワークス」（経営目標を達成できる組織体制の強化を目指すプログラム）を説明した。